

問1 東北地方の中央部を縦断する奥羽山脈が、この地域の気候に与える影響についての説明として最も適切なものはどれですか。(2023年 徳島公立入試 類似)

1. 冬に吹く北西の季節風が山脈にぶつかることで、日本海側に雪をもたらす、太平洋側を乾燥させる原因となっている。
2. 夏の冷たい風である「やませ」を遮ることで、太平洋側の平野部における冷害の発生を完全に防いでいる。
3. 標高が非常に高いため、山脈を境に気温差が激しくなり、日本海側のみが一年中温暖な気候となっている。
4. 山脈が季節風を完全に遮断するため、東北地方の太平洋側では年間を通して降水量が極めて少なくなっている。

問2 岩手県の伝統的工芸品である南部鉄器は、近年ではデザイン性の高いカラフルな急須が開発されるなど、海外でも高い評価を得ています。このような「伝統的工芸品」が指定を受けるための条件や背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2020年 高知公立入試 類似)

1. 100年以上の歴史があり、日常生活で 사용되는ものを、伝統的な原材料と熟練した手仕事によって製造している。
2. 最新の全自動機械を導入した工場で大規模生産を行うことにより、品質の均一化と低価格化を実現している。
3. 原材料には必ず海外から輸入した希少な鉱物を使用し、最新の科学技術を用いて加工しなければならない。
4. 地域の観光客向けのお土産品として戦後に新しく考案されたもので、歴史的な背景は問われない。

問3 日本の地域区分における都道府県の境界について述べた文として、正しいものはどれですか。(2020年 和歌山公立入試 類似)

1. 福島県は、東北地方に属しながら関東地方の県と境界を接している。
2. 宮城県は、東北地方の県の中で最も南に位置し、千葉県と隣接している。
3. 山形県は、関東地方の栃木県と直接境界を接している唯一の東北地方の県である。
4. 秋田県は、東北地方の中で唯一、中部地方の県と境界を接している。

問4 東北地方の農業統計において、ある農作物の栽培面積が占める割合を見ると、青森県で18.1%、山形県で9.6%、福島県で6.2%となっており、岩手県・秋田県・宮城県の数値に比べて際立って高い数値を示しています。この統計で示された農作物の分類として最も適切なものを次の中から選びなさい。(2020年 福島県公立入試 類似)

1. 果樹
2. 稲
3. 麦類
4. 野菜

問5 東北地方の南部に位置する福島県は、全部で6つの県と境を接しています。このうち、福島県と同じ東北地方に属しており、かつ福島県と北側で隣接している県の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2017年 三重公立入試 類似)

1. 宮城県と山形県
2. 宮城県と岩手県
3. 山形県と新潟県
4. 秋田県と山形県

問6 日本の諸地域における面積と人口の割合を整理した統計において、国土全体に占める面積の割合が約18%であるのに対し、人口の割合が約7%にとどまっている地方があります。この地方の人口密度に関する記述として最も適切なものはどれですか。(2020年 福島県公立入試 類似)

1. 面積の割合に比べて人口の割合が小さいため、全国的に見て人口密度が低い。
2. 面積の割合と人口の割合がほぼ一致しており、全国平均に近い人口密度である。
3. 広大な平野部に人口が集中しているため、全国でも有数の高い人口密度を示している。
4. 人口の割合が面積の割合を大きく上回っており、都市部での過密化が最大の課題となっている。

問7 日本の地方別の統計において、米の農業生産額が全国の約四分の一(25パーセント以上)を占め、全国で最も高い割合を示している東北地方の農業の特色について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2024年 福井公立入試 類似)

1. 庄内平野などの広大な平野において大規模な稲作が行われており、日本の穀倉地帯としての役割を果たしている。
2. シラス台地が広がる地域を中心に、豚や鶏などの飼育が盛んな畜産中心の農業が展開されている。
3. 成長の早い米の品種を利用し、一年のうち同じ土地で二回米を収穫する二期作が全域で行われている。
4. 都市へへの出荷に有利な立地を生かし、米よりも野菜や花の生産額が上回る近郊農業が中心となっている。

問8 江戸時代に河村瑞賢によって整備された「西廻り航路」が、当時の東北地方の物流や社会に与えた影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。(2026年 京都府公立入試 類似)

1. 日本海沿岸の米などの物資が、瀬戸内海を経て大阪へ大量に輸送されるようになり、酒田などの寄港地が繁栄した。
2. 太平洋側の沿岸部を航行し、房総半島を回って直接江戸へ物資を運ぶことが可能になったため、東北の内陸開発が進んだ。
3. 最上川の下流から上流に向けて物資を運ぶ技術が向上したことで、内陸部の米を直接太平洋側の仙台へと運ぶ主要ルートとなった。
4. 外国船との貿易を目的とした航路として整備され、酒田港は清やオランダとの取引を行う国際貿易港として発展した。

問9 東北地方の太平洋側では、夏に「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東風が吹くことで、気温が上がらずに農作物の生育が妨げられる「冷害」が発生することがあります。このような自然条件を克服するために行われてきた、東北地方の稲作に関する取り組みとして最も適切なものはどれですか。(2017年 兵庫公立入試 類似)

1. 耐冷性に優れた品種改良を重ねるとともに、高品質な銘柄米を安定して生産する体制を整えた。
2. やませの涼やかな気候が稲の成長を助けることを利用し、生産量を無制限に増やす方針をとった。
3. 冷害による収穫不足を補うため、米から小麦や大豆への全面的な作目転換を地域全体で行った。
4. 大規模な温室を建設し、夏の間も人工的に気温を上昇させて熱帯地域の稲を栽培するようにした。

問10 東北地方において、津軽塗や南部鉄器といった伝統的工芸品が古くから発展してきた背景を説明したものととして、最も適切な理由はどれですか。(2022年 京都公立入試 類似)

1. 積雪の多い冬の農閑期に、屋内でできる貴重な現金収入源として技術が磨かれたため
2. 江戸時代に整備された五街道のすべてが東北地方を起点としており、物流の拠点であったため
3. 東北地方は8つの県で構成される広大な地域であり、各藩が共通の特産品を推奨したため
4. 一年を通じて温暖な気候に恵まれ、屋外での大規模な手作業に適していたため

問11 東北地方や北陸地方の日本海側において、米の産出額が他の地域に比べて特に多い理由として、自然環境の面から説明したものととして最も適切なものはどれですか。(2018年 福岡県公立入試 類似)

1. 冬の積雪が春先の豊かな農業用水となり、最上川などの河川沿いに広大な平野が広がっているため。
2. 年間を通じて降水量が非常に少なく、米の乾燥に適した気候条件が整っているため。
3. 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい風が吹き続けることで、稲の成長が促進されるため。
4. 火山灰が堆積した水はけの良い土地が広がっており、大規模な水田開発に適していたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬に吹く北西の季節風が山脈にぶつかることで、日本海側に雪をもたらし、太平洋側を乾燥させる原因となっている。	奥羽山脈は、冬の湿った北西季節風を遮る壁のような役割を果たしています。このため、風がぶつかる日本海側では世界的な豪雪地帯が形成される一方、山を越えた後の乾燥した空気が流れ込む太平洋側では、冬は晴天の日が多くなります。このように、山脈の存在が地域の気候特性を決定づける大きな要因となっています。
問2	答え 1 100年以上の歴史があり、日常生活で使われるものを、伝統的な原材料と熟練した手仕事によって製造している。	「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）」に基づき、100年以上の歴史があること、日常生活で使われるものであること、製造工程の主要部分が手作りであることなどが指定の条件となっています。南部鉄器は江戸時代に南部藩や伊達藩の保護を受けて発展した歴史があり、現在でもその技術を継承しながら、時代の変化に合わせて新たな市場を開拓しています。
問3	答え 1 福島県は、東北地方に属しながら関東地方の県と境界を接している。	東北地方は6つの県で構成されていますが、その中で関東地方（茨城県、栃木県、群馬県）と直接陸上で接しているのは福島県のみです。宮城県や山形県は福島県よりも北に位置するため、関東地方の県とは接していません。このような隣接関係を理解することは、地方区分や物資の輸送ルートを把握する上で重要です。
問4	答え 1 果樹	東北地方では、県ごとに特色ある農業が行われています。青森県ではりんご、山形県ではさくらんぼ、福島県では桃といったように、特定の農産物を重点的に生産する傾向があります。これらの作物は「果樹」に分類され、当該県における栽培面積の割合も、他の東北3県（岩手・秋田・宮城）と比較して高くなっているのが特徴です。
問5	答え 1 宮城県と山形県	福島県は東北地方の最南端に位置するため、同じ東北地方の中で境界を接しているのは北側に位置する宮城県と山形県の2県のみです。岩手県や秋田県、青森県とは直接接していません。また、西側で接している新潟県は中部地方に分類されるため、地方区分と県境の位置関係を正確に理解しておく必要があります。
問6	答え 1 面積の割合に比べて人口の割合が小さいため、全国的に見て人口密度が低い。	東北地方は、日本の総面積の約18%（17.7%）という広大な土地を有していますが、総人口に占める割合は約7%（7.1%）にとどまっています。面積の大きさに比して居住する人口が少ないため、1平方キロメートルあたりの人口を示す人口密度は、全国的に見て低い値となるのが大きな特徴です。
問7	答え 1 庄内平野などの広大な平野において大規模な稲作が行われており、日本の穀倉地帯としての役割を果たしている。	東北地方は秋田平野、庄内平野、仙台平野といった広大な平野を有しており、これらを利用した大規模な米作りが盛んです。日本の食料基地（穀倉地帯）と呼ばれ、米の農業生産額において全国で圧倒的なシェアを誇っています。選択肢にある畜産中心の記述は九州地方、二期作はかつての高知県などの特色であり、東北地方は冷涼な気候のため一期作が一般的です。
問8	答え 1 日本海沿岸の米などの物資が、瀬戸内海を経て大阪へ大量に輸送されるようになり、酒田などの寄港地が繁栄した。	西廻り航路の整備により、東北地方の日本海側の物資（特に米）が、北陸・瀬戸内海を経由して経済の中心地である大阪へ安全かつ大量に運ばれるようになりました。この物流の要所となった酒田港（現在の山形県酒田市）は、「西の堺、東の酒田」と称されるほど商業的に大きな発展を遂げました。太平洋側を通るルートは東廻り航路と呼ばれます。
問9	答え 1 耐冷性に優れた品種改良を重ねるとともに、高品質な銘柄米を安定して生産する体制を整えた。	東北地方は古くから「やませ」による冷害に悩まされてきましたが、農業試験場などを中心に寒さに強い稲の品種改良が進められてきました。現在では、単に寒さに強いだけでなく、「コシヒカリ」などの系統を継承した「ひとめぼれ」や「あきたこまち」といった食味の良い銘柄米（ブランド米）の生産が盛んになり、全国的な産地としての地位を確立しています。
問10	答え 1 積雪の多い冬の農閑期に、屋内でできる貴重な現金収入源として技術が磨かれたため	東北地方は冬の寒さが厳しく、雪によって農業ができない期間（農閑期）が長く続きます。この期間に、地元で採れる木材や漆、鉄などの資源を加工し、屋内で副業として工芸品を作ることが奨励されたため、高度な技術が蓄積されました。なお、東北地方は6県で構成されており、五街道（東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道）のうち、東北地方を通るのは奥州街道のみです。
問11	答え 1 冬の積雪が春先の豊かな農業用水となり、最上川などの河川沿いに広大な平野が広がっているため。	日本海側の地域では、冬の季節風の影響で降雪量が多く、その雪解け水が春先の田植えに必要な農業用水として利用されてきました。また、庄内平野や秋田平野、越後平野といった河川の堆積作用によって形成された広大な平野が、機械化を進めやすい大規模な稲作経営を可能にしています。なお、「やませ」は冷害の原因となるため、米づくりにとっては克服すべき課題の一つです。